

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ホッカイドウカガクダイガク 学校法人 北海道科学大学								
フリガナ大学の名称	ホッカイドウカガクダイガクダイガクイン 北海道科学大学大学院 (Graduate School of Hokkaido University of Science)								
大学本部の位置	北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号								
大学の目的	本学大学院は、学部の教育の基礎のうえに高度学術の理論及びその応用を教授研究し、その深奥を究めて産業・医療・文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本専攻は、学術研究を担う者としての自覚や意識と自立して研究活動を行うに足る研究能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者を養成する。また、研究者の養成と同様の要素に加えて、大学教育を担う者としての自覚や意識と授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実にに向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者の養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる修士課程及び学部】 保健医療学研究科 修士課程 看護学専攻 リハビリテーション科学専攻 医療技術学専攻 保健医療学部 看護学科 理学療法学科 義肢装具学科 臨床工学科 診療放射線学科
	保健医療学研究科 [Graduate School of Health Sciences] 保健医療学専攻(D) [Division of Health Sciences (Doctoral Program)] 計	年	人	年次人	人	博士(保健医療学) 【Doctor of Health Sciences】	平成32年4月 第1年次	北海道 札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程)	講義	演習	実験・実習	計	24 単位			
		12 科目	1 科目	－ 科目	13 科目				

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設			人	人	人	人	人	人	
	分	保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）		15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)
	計		15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	— —
組織の概要	工学研究科 機械工学専攻（修士課程）		8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)
	工学研究科 電気電子工学専攻（修士課程）		9 (9)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
	工学研究科 情報工学専攻（修士課程）		12 (12)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)
	工学研究科 建築学専攻（修士課程）		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
	工学研究科 都市環境学専攻（修士課程）		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	5 (5)
	保健医療学研究科 看護学専攻（修士課程）		9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	12 (12)
	保健医療学研究科 リハビリテーション科学専攻（修士課程）		8 (8)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	11 (11)
	保健医療学研究科 医療技術学専攻（修士課程）		10 (10)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	8 (8)
	工学研究科 工学専攻（博士後期課程）		33 (33)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	0 (0)
	薬学研究科 臨床薬学専攻（博士課程）		24 (24)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	2 (2)
	計		92 (92)	39 (39)	6 (6)	1 (1)	138 (138)	0 (0)	— —
要	合計		92 (92)	39 (39)	6 (6)	1 (1)	138 (138)	0 (0)	— —
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
			人		人		人		
	事務職員		113 (113)		27 (27)		140 (140)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		115 (115)		27 (27)		142 (142)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	135,771 m ²	23,909 m ²		4,161 m ²		163,841 m ²		
	運動場用地	0 m ²	127,255 m ²		0 m ²		127,255 m ²		
	小計	135,771 m ²	151,164 m ²		4,161 m ²		291,096 m ²		
	その他	97,748 m ²	0 m ²		0 m ²		97,748 m ²		
	合計	233,519 m ²	151,164 m ²		4,161 m ²		388,844 m ²		

前田キャンパス全体
(法人、北海道科学大学、北海道科学大学短期大学部)

北海道科学大学短期大学部(必要面積:2,500 m²)と共用
(収容定員:250人)

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			北海道科学大学短期大 学部(必要面積：2,900 ㎡)と共用 (収容定員：250人)		
		66,726 ㎡ (66,726 ㎡)	17,434 ㎡ (17,434 ㎡)	4,064 ㎡ (4,064 ㎡)	88,224 ㎡ (88,224 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体		
	72 室	159 室	213 室	0 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		保健医療学研究科 保健医療学専攻(博士後期課程)			17 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	<図書、学術雑誌、視 聴覚資料、標本> 専攻で特定不能なた め、大学全体の数 <機械・器具> 専攻で特定不能なた め、基礎となる学部・ 研究科の全体の数		
	保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程)	192,853 [35,124] (178,823 [32,469])	2,044 [1,200] (2,044 [1,200])	3,160 [1,765] (3,160 [1,765])	2,361 (2,361)	6,493 (6,493)	223 (223)			
	計	192,853 [35,124] (178,823 [32,469])	2,044 [1,200] (2,044 [1,200])	3,160 [1,765] (3,160 [1,765])	2,361 (2,361)	6,493 (6,493)	223 (223)			
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		5,371 ㎡		487		260,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		5,720 ㎡		野球場1面、サッカー場1面、ラグビー場1面、テニス コート6面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	専攻で算出不能なた め、大学全体の平均額 大学全体 大学全体 図書購入費は、電子 ジャーナル・データベースを含 む 大学全体
		教員1人当り 研究費等		580千円	580千円	580千円	－千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		4,796千円	4,796千円	4,796千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	8,228千円	8,228千円	8,228千円	8,228千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	129,325千円	98,233千円	103,392千円	63,354千円	－千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入 等								

既設大学等の状況	大学の名称	北海道科学大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	工学部	年	人	年次人	人		倍		北海道 札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号	
	機械工学科	4	92	—	368	学士（工学）	0.91	平成20年度		
	情報工学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.11	平成20年度		
	電気電子工学科	4	80	—	320	学士（工学）	0.91	平成20年度		
	建築学科	4	80	—	320	学士（工学）	1.12	平成26年度		
	都市環境学科	4	50	—	200	学士（工学）	1.03	平成26年度		
	薬学部						1.04			
	薬学科	6	180	—	1,200	学士（薬学）	1.04	平成30年度		平成30年度入学定員減（△30人）
	保健医療学部						1.04			
	看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	1.09	平成26年度		
	理学療法学科	4	40	—	160	学士（理学療法学）	1.12	平成26年度		
	義肢装具学科	4	50	—	200	学士（義肢装具学）	0.68	平成24年度		
	臨床工学科	4	70	—	280	学士（臨床工学）	1.13	平成20年度		
	診療放射線学科	4	50	—	200	学士（放射線技術学）	1.12	平成26年度		
	未来デザイン学部						1.05			
	メディアデザイン学科	4	80	—	320	学士（工学）	1.08	平成20年度		
	人間社会学科	4	50	—	200	学士（工学）	1.01	平成20年度		
	工学研究科 修士課程						0.35			
	機械工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0.70	平成4年度		
	電気電子工学専攻	2	4	—	8	修士（工学）	0.12	平成24年度		
	情報工学専攻	2	4	—	8	修士（工学）	0.62	平成24年度		
	医療工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成24年度		平成30年度より学生募集停止
	建築学専攻	2	4	—	8	修士（工学）	0.25	平成2年度		
	都市環境学専攻	2	4	—	8	修士（工学）	0.00	平成4年度		
	保健医療学研究科 修士課程						1.11			
	看護学専攻	2	5	—	10	修士（看護学）	1.30	平成30年度		
	リハビリテーション科学専攻	2	4	—	8	修士（リハビリテーション科学）	0.87	平成30年度		
	医療技術学専攻	2	4	—	8	修士（医療技術学）	1.12	平成30年度		
	工学研究科 博士後期課程						0.38			
	工学専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.38	平成28年度		
薬学研究科 博士課程						0.00				
臨床薬学専攻	4	3	—	12	博士（薬学）	0.00	平成30年度			
既設大学等の状況	大学の名称	北海道科学大学短期大学部								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	自動車工学科	2	100	—	250	短期大学士（自動車工学）	0.63	昭和28年度	北海道 札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号	平成31年度入学定員減（△50人）
	附属施設の概要	名称：薬草園 目的：薬草の教育研究 所在地：北海道小樽市桂岡町7番1号 設置年月：昭和51年4月 規模等：土地3,290㎡								

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	保健医療学基盤研究	1前	2			○			5					共同 オムニバス・ 共同（一部） 兼1	
	保健医療学研究方法	1後	2			○			5						
	保健医療学研究倫理	1前		2		○									
	小計（3科目）	—	4	2	0	—			5	0	0	0	0	兼1	—
専修科目	保健医療学特殊研究Ⅰ	1通		2		○			4					共同 共同 共同 共同 共同	
	保健医療学特殊研究Ⅱ	1通		2		○			2	1					
	保健医療学特殊研究Ⅲ	1通		2		○			3						
	保健医療学特殊研究Ⅳ	1通		2		○			2	1					
	保健医療学特殊研究Ⅴ	1通		2		○			4						
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			15	2	0	0	0	0	—
展開科目	研究開発基盤研究	1前		2		○			5					兼2 オムニバス	
	研究開発実践研究	1後～2前		2		○			5						
	大学教育基盤研究	1前		2		○			4	1					
	大学教育実践研究	1後～2前		2		○			4	1					
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			9	1	0	0	0	兼2	—
研究科目	保健医療学特別研究	1～3通	12					○	15	2					
	小計（1科目）	—	12	0	0	—			15	2	0	0	0	0	—
合計（13科目）		—	16	20	0	—			15	2	0	0	0	兼3	—
学位又は称号	博士（保健医療学）	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係以外)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件については、共通科目4単位及び研究科目12単位の必修科目16単位の他、指導教員の指導により、専修科目から自己の研究課題に即した分野の「特殊研究」2単位、展開科目から修了後の進路に応じた「研究開発」又は「大学教育」を選択し同系統の2科目4単位を含む合計24単位以上を修得するとともに、所定の研究指導を受け博士論文を提出し、学位論文の審査及び筆記又は口述による最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

<基礎となる修士課程>
別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																
(保健医療学研究科 看護学専攻 修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	保健医療学特論	1前	2			○			1					兼5	オムニバス	
	健康管理学特論	1後	2			○								兼2	オムニバス	
	医療倫理学特論	1前	2			○								兼1		
	医療安全学特論	1後		2		○								兼2	オムニバス	
	小計(4科目)	—	6	2	0	—			1	0	0	0	0	兼10	—	
専修科目	看護共通科目	看護倫理学特論	1前	2			○		1					兼1	オムニバス	
		ヘルスプロモーション特論	1前	2			○		2							オムニバス
		リハビリテーション看護学特論	1前		2		○		1							
		感染看護学特論	1後		2		○		1							
		看護教育学特論	1前		2		○		1						兼1	オムニバス
		看護管理学特論	1後		2		○		1							
	小計(6科目)	—	4	8	0	—			7	0	0	0	0	兼2	—	
	専門科目	看護技術学特論	1通		4		○		2							オムニバス
		成人看護学特論	1通		4		○		3	1						オムニバス
		母子看護学特論	1通		4		○		2		1					オムニバス
		老年看護学特論	1通		4		○		1							
		地域看護学特論	1通		4		○		1						兼1	オムニバス
看護学演習		1後・2前	2				○	9	2	1					共同	
小計(6科目)	—	2	20	0	—			9	2	1	0	0	兼1	—		
研究科目	看護学研究方法論	1前	2			○		1								
	看護学特別研究	1~2	8				○	9	3	0						
	小計(2科目)	—	10	0	0	—			9	3	0	0	0	0	—	
合計(18科目)		—	22	30	0	—			9	3	1	0	0	兼12	—	
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
修了要件については、共通科目の必修6単位、看護共通科目の必修4単位、指導教員が担当する専門科目の特論4単位と看護学演習の必修2単位及び研究科目の必修10単位を含む30単位以上を修得するとともに、所定の研究指導を受けて修士論文を提出し、学位論文の審査及び筆記又は口述による最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

<基礎となる修士課程>

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(保健医療学研究科 リハビリテーション科学専攻 修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	保健医療学特論	1前	2			○			2					兼4	オムニバス
	健康管理学特論	1後	2			○			1					兼1	オムニバス
	医療倫理学特論	1前	2			○								兼1	
	医療安全学特論	1後		2		○								兼2	オムニバス
	小計（4科目）	—	6	2	0	—			3	0	0	0	0	兼8	—
領域共通科目	リハビリテーション学特論	1前	2			○			1						
	リハビリテーション工学特論	1後	2			○			2	2					オムニバス
	リハビリテーション医学特論	1後		2		○								兼1	
	生活活動支援学特論	1前		2		○			2					兼1	オムニバス
	医療情報学特論	1前		2		○								兼1	オムニバス
	小計（5科目）	—	4	6	0	—			4	2	0	0	0	兼3	—
専修科目	理学療法学特論	1前		2		○			1						
	理学療法評価学特論	1後		2		○			2						オムニバス
	理学療法治療学特論	1後		2		○				1	1				オムニバス
	理学療法学演習	1後・2前		2			○		3	2	1				共同
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			3	2	1	0	0	0	—
義肢装具学領域科目	義肢装具学動作分析特論	1前		2		○			2						オムニバス
	義肢装具学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	応用義肢装具学特論	1後		2		○			3						オムニバス
	義肢装具学演習	1後・2前		2			○		4	2					共同
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			4	2	0	0	0	0	—
研究科目	理学療法学研究方法論	1前		2		○			1						
	理学療法学特別研究	1～2		8			○		4	2	1				
	義肢装具学研究方法論	1前		2		○			1						
	義肢装具学特別研究	1～2		8			○		4	2					
	小計（4科目）	—	0	20	0	—			8	4	1	0	0	0	—
合計（21科目）		—	10	44	0	—			8	4	1	0	0	兼11	—
学位又は称号		修士（リハビリテーション科学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件については、共通科目の必修6単位、領域共通科目の必修4単位、研究科目の「研究方法論」2単位及び「特別研究」8単位を含む30単位以上を修得するとともに、所定の研究指導を受けて修士論文を提出し、学位論文の審査及び筆記又は口述による最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

<基礎となる修士課程>
別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(保健医療学研究科 医療技術学専攻 修士課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	保健医療学特論	1前	2			○			2	1				兼3	オムニバス
	健康管理学特論	1後	2			○								兼2	オムニバス
	医療倫理学特論	1前	2			○								兼1	
	医療安全学特論	1後		2		○			1					兼1	オムニバス
	小計(4科目)	—	6	2	0	—			3	1	0	0	0	兼7	—
領域 共通 科目	医療情報学特論	1前		2		○				1				兼1	オムニバス
	医療マネジメント特論	1後		2		○				1					オムニバス
	医療統計学特論	1後		2		○				2					オムニバス
	放射線科学特論	1前		2		○			2						オムニバス
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			2	2	0	0	0	兼1	—
専修 科目	医用生体工学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	医用機器学特論	1後		2		○				1					
	生体機能代行技術学特論	1後		2		○			1						
	医用安全管理学特論	1後		2		○			1			1			オムニバス
	臨床医学特論	1前		2		○			1						
	臨床工学演習	1後・2前		2			○		3	1					共同
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			4	1	0	1	0	0	—
放射 線 技 術 学 領 域 科 目	診療画像技術学特論	1前		2		○			1		1				オムニバス
	核医学検査技術学特論	1前		2		○			1						
	放射線治療技術学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	医用画像情報学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	放射線安全管理学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	放射線技術学演習	1後・2前		2			○		6	3	1				共同
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			6	3	1	0	0	0	—
研究 科目	臨床工学研究方法論	1前		2		○			1						
	臨床工学特別研究	1～2		8			○		4	1					
	放射線技術学研究方法論	1前		2		○			1						
	放射線技術学特別研究	1～2		8			○		6	1					
	小計(4科目)	—	0	20	0	—			10	2	0	0	0	0	—
合計(24科目)		—	6	54	0	—			10	5	1	1	0	兼8	—
学位又は称号	修士(医療技術学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係以外)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
修了要件については、共通科目の必修6単位、研究科目の「研究方法論」2単位及び「特別研究」8単位を含む30単位以上を修得するとともに、所定の研究指導を受けて修士論文を提出し、学位論文の審査及び筆記又は口述による最終試験に合格すること。						1学年の学期区分				2学期					
						1学期の授業期間				15週					
						1時限の授業時間				90分					

<基礎となる学部>

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(保健医療学部 看護学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
基本 教育 科目	基礎数学	1前		1				○							兼2	
	基礎物理学	1前		1				○							兼1	
	基礎化学	1後		1				○							兼1	
	基礎生物学	1後		1				○			1					
	情報処理法	1前	1					○							兼1	
	情報管理法	1後	1					○							兼1	
	統計分析法	2前	1					○							兼1	
	日本語表現法Ⅰ (作文、論文)	1前	1					○							兼3	
	日本語表現法Ⅱ (読解、分析)	1後	1					○							兼3	
	日本語表現法Ⅲ (発表、討論)	2前	1					○							兼3	
	英語Ⅰ (基礎)	1前	1					○							兼3	
	英語Ⅱ (応用)	1後	1					○							兼3	
	英語Ⅲ (実践)	2前	1					○							兼3	
	英語コミュニケーション	2後		1				○							兼2	
	フレッシュマンセミナー	1前	1					○			2	1		1		
	プロジェクトスキルⅠ	1後	1					○							兼2	
	プロジェクトスキルⅡ	2前	1					○							兼2	
	自己管理と社会規範	2後	1					○							兼1	
	他者理解と信頼関係	3前	1					○							兼1	
	地域活動と社会貢献	3後	1					○							兼1	
	人間の理解Ⅰ (健康と運動)	1前		2			○								兼1	
	人間の理解Ⅱ (民族と宗教)	1後		2			○								兼1	
	人間の理解Ⅲ (歴史と文化)	2前		2			○								兼1	
	人間の理解Ⅳ (心理と行動)	2後		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅰ (自然と環境)	1前		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅱ (政治と経済)	1後		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅲ (国際と平和)	2前		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅳ (法律と人権)	2後		2			○								兼1	
	体育実技Ⅰ	1前		1					○						兼4	
	体育実技Ⅱ	1後		1					○						兼2	
小計 (30科目)		—	15	23	0			—		0	2	1	0	1	兼31	
専門基礎 教育科目	造 人 と 体 機 能 の 構 成	感染免疫学	1前	1				○								
		解剖生理学Ⅰ	1前	2				○				1				兼1
		解剖生理学Ⅱ	1後	2					○							兼1
		解剖生理学Ⅲ	2後	2					○							兼1
	疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	病理学	1前	2					○							
		栄養学	1前	1					○				1			兼1
		病態学	1後	2					○				1			
		薬理学	1後	1					○				1			
		疾病治療論Ⅰ	1後	2					○							兼1
		疾病治療論Ⅱ	2後	2					○							兼1
社 会 保 障 支 援 と 制 度	医療概論	1前	2					○			2				オムニバス	
	公衆衛生学	2後	2					○							兼1	
	保健統計学	2後	1					○							兼1	
	保健医療福祉論	2後	1					○			2		1		オムニバス	
小計 (14科目)		—	23	0	0			—		4	1	1	0	0	兼5	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
看護の基本	看護学概論	1前	2			○			1						共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同
	看護学基礎技術論	1前	2			○			1						
	看護学基礎技術演習Ⅰ	1前	1				○		1	1		3	2		
	看護学基礎技術演習Ⅱ	1後	1				○		1	1		3	2		
	看護学基礎技術演習Ⅲ	2前	1				○		1	1		3	2		
	看護過程演習Ⅰ	1後	1				○		1	1		3	2		
	看護過程演習Ⅱ	2前	1				○		1	1		3	2		
	ヘルスアセスメントⅠ	1後	1				○		1	1		3	2		
	ヘルスアセスメントⅡ	2前	1				○		1	1		3	2		
	看護倫理	3前	1			○			3	1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	1	1		3	2		
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					○	1	1		3	2		
専門教育科目	成人看護	成人看護学概論	2前	1			○		2					共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	
		成人看護学援助論	2前	1			○		2						
		成人看護学援助論演習Ⅰ	2後	1				○		1	1	1	2		1
		成人看護学援助技術論演習Ⅰ	3前	1				○		1	1	1	2		1
		成人看護学援助論演習Ⅱ	3前	1				○		1	1	1	1		
		成人看護学援助技術論演習Ⅱ	4前	1				○		1	1	1	1		
		成人看護学実習Ⅰ	3後	3					○	1			1		1
		成人看護学実習Ⅱ	4前	3					○	1	1	1	1		1
	老年看護	老年看護学概論	2前	1			○			1	1	1			共同 共同 共同 共同 共同
		老年看護学援助論	2前	1			○			1	1	1			
		老年看護学援助論演習	2後	1				○		1	1	1		1	
		老年看護学援助技術論演習	3前	1				○		1	1	1		1	
老年看護学実習Ⅰ		2後	1					○	1	1	1		1		
老年看護学実習Ⅱ	3後	3					○	1	1	1		1			
看護の展開	小児看護	小児看護学概論	2前	1			○		2	1				共同 共同 共同 共同 共同	
		小児看護学援助論	2前	1			○		2	1					
		小児看護学援助論演習	2後	1				○		2	1				
		小児看護学援助技術論演習	3前	1				○		2	1				
		小児看護学実習	3後	2					○	2	1				
母性看護	母性看護学概論	2前	1			○					1			共同 共同 共同 共同 共同	
	母性看護学援助論	2前	1			○					1				
	母性看護学援助論演習	2後	1				○				1	1	1		
	母性看護学援助技術論演習	3前	1				○				1	1	1		
	母性看護学実習	3後	2					○			1	1	1		
精神看護	精神看護学概論	2前	1			○				1				共同 共同 共同 共同 共同	
	精神看護学援助論	2前	1			○				1					
	精神看護学援助論演習	2後	1				○			1	1		1		
	精神看護学援助技術論演習	3前	1				○			1	1		1		
	精神看護学実習	3後	2					○		1	1		1		
在宅看護	在宅看護学概論	2後	1			○			1	1	1		1	共同 共同 共同 共同 共同	
	在宅看護学援助論	2後	1			○			1	1	1		1		
	在宅看護学援助論演習	3前	1				○		1	1	1		1		
	在宅看護学援助技術論演習	4前	1				○		1	1	1		1		
	在宅看護学実習	4前	2					○	1	1	1		1		

教育課程等の概要															
(保健医療学部 看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	看護の統合と実践	看護安全管理	4後	1			○			1					
		終末期看護	4後	1			○			1		1			
		救急看護	4後		2			○		1			1		
		ストレスとメンタルヘルス	4後		2			○			2				
		乳幼児疾患と看護	4後		2			○		2	1				
		慢性期疾患看護	4後		2			○		1		1			
		リハビリテーション看護	4後		2			○		1	1				
		健康管理と看護	4後		2			○		1	1				
		家族看護論	4後		2			○		1		1			
		看護における管理と教育	4後		2			○		2					
	看護総合実習	4前	2					○	7	6	6	5	4		
	看護の発展と関連	チーム医療論	1前	1				○				1			
		医療機器論	2後	2				○							
		医療機器論演習	3前		1				○						
医療情報学		3前		1				○							
医療英語概論		3前		2				○							
比較医療文化論		3後		2				○							
比較医療文化論演習Ⅰ		4前		1					○						
比較医療文化論演習Ⅱ	4後		1						○						
看護の研究	看護学研究法	3後	2					○		3	5	6	3		
	看護総合ゼミ	4通	2						○	2	2	1	2		
小計 (67科目)		—	70	24	0			—		9	7	6	6	7	
卒業研究	卒業研究	4通	4						○	7	7	6	3		
小計 (1科目)		—	4	0	0			—		7	7	6	3	0	
合計 (112科目)			—	112	47	0		—		10	7	6	6	7	
学位又は称号		学士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
・卒業要件 保健医療学部看護学科における卒業要件は、学部にて4年以上在学し、履修方法に基づき124単位以上を修得することにより、「学士 (看護学)」を授与する。 ・履修方法 ①基本教育科目：23単位以上 (必修15単位、選択8単位以上 (人間の理解Ⅰ～Ⅳ および社会の理解Ⅰ～Ⅳから6単位を含む)) ②専門基礎教育科目：23単位以上 ③専門教育科目：78単位以上 (必修74単位、選択4単位以上 (看護の統合と実践 から選択4単位以上を含む))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

<基礎となる学部>

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(保健医療学部 理学療法学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基本 教育 科目	基礎数学	1前		1			○								兼2	
	基礎物理学	1前		1			○								兼1	
	基礎化学	1後		1			○								兼1	
	基礎生物学	1後		1			○			1						
	情報処理法	1前	1				○								兼1	
	情報管理法	1後	1				○								兼1	
	統計分析法	2前	1				○								兼1	
	日本語表現法Ⅰ (作文、論文)	1前	1				○								兼2	
	日本語表現法Ⅱ (読解、分析)	1後	1				○								兼2	
	日本語表現法Ⅲ (発表、討論)	2前	1				○								兼2	
	英語Ⅰ (基礎)	1前	1				○								兼4	
	英語Ⅱ (応用)	1後	1				○								兼4	
	英語Ⅲ (実践)	2前	1				○								兼4	
	英語コミュニケーション	2後		1			○								兼2	
	フレッシュマンセミナー	1前	1				○			1	1		1			
	プロジェクトスキルⅠ	1後	1				○								兼1	
	プロジェクトスキルⅡ	2前	1				○								兼1	
	自己管理と社会規範	2後	1				○								兼1	
	他者理解と信頼関係	3前	1				○								兼1	
	地域活動と社会貢献	3後	1				○								兼1	
	人間の理解Ⅰ (健康と運動)	1前		2			○								兼1	
	人間の理解Ⅱ (民族と宗教)	1後		2			○								兼1	
	人間の理解Ⅲ (歴史と文化)	2前		2			○								兼1	
	人間の理解Ⅳ (心理と行動)	2後		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅰ (自然と環境)	1前		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅱ (政治と経済)	1後		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅲ (国際と平和)	2前		2			○								兼1	
	社会の理解Ⅳ (法律と人権)	2後		2			○								兼1	
	体育実技Ⅰ	1前		1					○						兼4	
	体育実技Ⅱ	1後		1					○						兼2	
小計 (30科目)		—	15	23	0		—			1	1	0	1	0	兼30	
専門 基礎 教育 科目	人体の 構造 と 機能	解剖学	1前	4			○			1	1				オムニバス	
		生理学	1前	4			○			1	1					
		解剖学演習	1後	1				○		1	1					
		生理学演習	1後	1				○		1	1		1			
		運動機能解剖学演習	1後	1				○		1	1					
		運動機能生理学演習	1後	1				○		1	1					
		基礎運動学	1後	1				○		1	1					
		人間発達学	2前	1				○								兼1
		運動学演習Ⅰ	2前	1				○		1	1					
		運動学演習Ⅱ	2前	1				○		1	1					
	成り立ち および 回復 過程の 促進	疾病と障害の	病理学	1後	2			○				1				
			整形外科学	2前	4			○								兼3
			小児科学	2前	1			○								兼1
			生命倫理学	2後	1			○			1					兼1
		2後	2			○								兼1		
		2後	2			○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(保健医療学部 理学療法学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門基礎教育科目	精神医学 一般臨床医学 臨床心理学 外科学 画像診断学 薬理学 老年学	2後	2			○									兼1
		2後	1			○									兼1
		3前	1			○									兼1
		3前	1			○									兼1
		3前	1			○									兼2
		3後	1			○				1					オムニバス
		3後	1			○				1					
	リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1後	1			○			1					
		リハビリテーション医学	1後	1			○			1			1		
		公衆衛生学	3後	1			○				1				
介護予防論		3後		1		○				1					
小計 (27科目)		—	39	1	0	—	—	—	4	3	0	2	0	兼12	—
専門教育科目	基礎理学療法学	理学療法学概論	1前	2			○			1					
		基礎理学療法臨床見学	1後	1					○	3	3	1	3		
		病態運動学	2前	1			○				1		2		オムニバス
		理学療法学研究法	3前	2			○			3					オムニバス
	理学療法評価学	理学療法基礎評価学演習	2前	1				○			1		2		
		運動器系理学療法評価学演習	2後	1				○			1		2		オムニバス
		中枢神経系理学療法評価学演習	2後	1				○				1	1		オムニバス
		内部系理学療法評価学演習	2後	1				○				1	1		オムニバス
		理学療法評価学総合演習	3前	1				○		3	3	1	3		
	理学療法治療学	運動療法学演習	2前	1				○			1		1		オムニバス
		物理療法学	2前	2			○				1				
		動作分析学演習	2後	1				○				1	1		オムニバス
		運動器系理学療法学演習Ⅰ	2後	1				○			1		2		オムニバス
		中枢神経系理学療法学演習Ⅰ	2後	1				○				1	1		オムニバス
		内部系理学療法学演習Ⅰ	2後	1				○				1	1		オムニバス
		物理療法学演習	2後	1				○			1		1		
		日常生活活動学演習Ⅰ	2後	1				○					2		オムニバス
		運動器系理学療法学演習Ⅱ	3前	1				○			1		2		
		中枢神経系理学療法学演習Ⅱ	3前	1				○				1	1		
		内部系理学療法学演習Ⅱ	3前	1				○				1	1		
小児理学療法学		3前	2				○							兼1	
義肢装具学		3前	2				○				1			兼2	
日常生活活動学演習Ⅱ		3前	1				○					2			
高齢者理学療法学		3後	1				○		1						
義肢装具学演習	3後	1				○				1			兼2		
理学療法治療学総合演習	3後	1				○		1	1	1	3				
地域理学療法学	スポーツ理学療法学	3後		1		○								兼1	
	急性期理学療法学	3後		1		○								兼1	
	高次脳機能障害学	3後		1		○									
	地域理学療法学	3前	1			○			1						
関連科目	チーム医療論	1前	1			○			1			1		兼4	
	チーム医療論Ⅱ	4後		1		○			1			1		オムニバス	
	医療情報学	3前		1		○								兼1	
	看護学概論	3後		1		○								兼1	
臨床工学概論	3後		1		○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
臨床実習	理学療法評価学臨床実習	3後	6					○	3	3	1	3				
	理学療法総合臨床実習Ⅰ	4通	6					○	3	3	1	3				
	理学療法総合臨床実習Ⅱ	4通	6					○	3	3	1	3				
科総目合	理学療法学総論	4前	1				○		3	2						
	総合理学療法演習	4後	1				○		4	3	1	3				
小計 (43科目)		—	56	7	0	—			4	3	1	3	0		兼13	—
卒業研究	卒業研究	4通	4				○		4	3	1	3				
小計 (1科目)		—	4	0	0	—			4	3	1	3	0			—
合計 (101科目)		—	114	31	0	—			4	3	1	3	0		兼55	—
学位又は称号		学士 (理学療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件 保健医療学部義肢装具学科における卒業要件は、学部に4年以上在学し、履修方法に基づき124単位以上を修得することにより、「学士(義肢装具学)」を授与する。 ・履修方法 <ul style="list-style-type: none"> ①基本教育科目：23単位以上(必修15単位、選択8単位以上(人間の理解Ⅰ～Ⅳおよび社会の理解Ⅰ～Ⅳから6単位を含む)修得する。 ②専門基礎教育科目：必修39単位修得する。 ③専門教育科目：必修60単位修得する。 ④専門基礎教育科目及び専門教育科目の選択科目から2単位以上修得し、基本教育科目も含め合計124単位以上修得する。 ・履修科目の登録の上限：44単位(年間) 							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

<基礎となる学部>

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(保健医療学部 義肢装具学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基本 教育 科目	基礎数学	1前		1				○							兼2
	基礎物理学	1前		1				○							兼1
	基礎化学	1後		1				○							兼1
	基礎生物学	1後		1				○							兼1
	情報処理法	1前	1					○							兼1
	情報管理法	1後	1					○							兼1
	統計分析法	2前	1					○							兼1
	日本語表現法Ⅰ(作文、論文)	1前	1					○							兼1
	日本語表現法Ⅱ(読解、分析)	1後	1					○							兼1
	日本語表現法Ⅲ(発表、討論)	2前	1					○		1		1			兼1
	英語Ⅰ(基礎)	1前	1					○							兼2
	英語Ⅱ(応用)	1後	1					○							兼2
	英語Ⅲ(実践)	2前	1					○							兼2
	英語コミュニケーション	2後		1				○							兼2
	フレッシュマンセミナー	1前	1					○		3	2	2	1		
	プロジェクトスキルⅠ	1後	1					○							兼1
	プロジェクトスキルⅡ	2前	1					○		1		1			
	自己管理と社会規範	2後	1					○							兼1
	他者理解と信頼関係	3前	1					○							兼1
	地域活動と社会貢献	3後	1					○							兼1
	人間の理解Ⅰ(健康と運動)	1前		2			○								兼1
	人間の理解Ⅱ(民族と宗教)	1後		2			○								兼1
	人間の理解Ⅲ(歴史と文化)	2前		2			○								兼1
	人間の理解Ⅳ(心理と行動)	2後		2			○								兼1
	社会の理解Ⅰ(自然と環境)	1前		2			○								兼1
	社会の理解Ⅱ(政治と経済)	1後		2			○								兼1
	社会の理解Ⅲ(国際と平和)	2前		2			○								兼1
	社会の理解Ⅳ(法律と人権)	2後		2			○								兼1
	体育実技Ⅰ	1前		1					○						兼3
体育実技Ⅱ	1後		1					○						兼2	
小計(30科目)		—	15	23	0			—	3	2	2	1	0	兼26	—
専門 基礎 教育 科目	義肢装具の統計Ⅰ	2後	1				○			1					
	義肢装具の統計Ⅱ	4前		1			○				1				
	プログラミング演習	2後		1				○				1			
	電子工作演習	3後		1				○			1				
	基礎解剖演習Ⅰ	1前	2					○				1			
	基礎解剖演習Ⅱ	1後	2					○				1			
	基礎運動生理演習	1前	1					○		1					
	病理学概論	3後	1				○								兼1
	義肢装具学概論	1前	2				○			1					
	生命倫理学	4前	2				○			1					
	機能解剖学	3前	2				○				1				
	機能解剖学実習	3前	2						○		1				
	運動学	2前	2				○						1		
	運動学実習	2後	2						○		1		1		
	義肢装具材料学	1後	2				○				1				
	義肢装具材料力学	2前	2				○				1				
	医学概論	1前	2				○			1					
リハビリテーション工学	3前	2				○				1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 義肢装具学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎教育科目	リハビリテーション医学	2後	2			○			1						
	臨床心理学	4前	2			○									兼1
	小計 (20科目)	—	31	3	0	—	—	—	3	2	2	1	0	兼2	—
専門教育科目	義肢装具の美術演習	1前		1				○							兼1
	機械設計概論	2後	2			○				1					
	義肢装具基本工作論	1前	2			○			1		1				
	義肢装具基本工作論実習	1前	2					○	1		1				兼1
	整形外科学	3前	4			○			1						
	中枢神経疾患と装具評価演習 I	2後	2					○	1						
	中枢神経疾患と装具評価演習 II	3前		2				○	1	2					
	住環境と福祉	4後		2		○				1					
	義肢装具学関係法規	4後	2			○					1				
	理学療法・作業療法	4前	2			○									兼4
	義肢学 I	2前	2			○					1	1			
	義肢学 II	2後	2			○						1			
	義肢学 III	3後	2			○			1		1	1			
	義肢学 IV	4前	2			○			1		1	1			
	義肢学実習 I	2前	2					○			1	1			兼1
	義肢学実習 II	2後	2					○			1	1			
	義肢学実習 III	3後	2					○	1		1	1			
	義肢学実習 IV	4前	2					○	1		1	1			
	動作解析工学演習 I	2後	1					○	1	1					
	動作解析工学演習 II	3前		1				○	2	2					
	装具学 I	1後	2				○		1		1				
	装具学 II	1後	2				○		1	1					
	装具学 III	2後	2				○		1		1				
	装具学 IV	3前		2			○		2	2					
	装具学 V	4前		2			○		2						
	装具学実習 I	1後	2					○	1		1				兼1
装具学実習 II	1後	2					○	1	1					兼1	
装具学実習 III	2後	2					○	1		1					
装具学実習 IV	3前		1				○	2	2						
専門教育科目	装具学実習 V	4前		1				○	2						
	義肢装具研究法 I	3後	2			○					1				
	義肢装具研究法 II	4前	1			○					1				
	福祉用具学	4後		2		○			1					兼1	
	疾患と義肢装具評価学演習 I	1後	1					○	1						
	疾患と義肢装具評価学演習 II	2前	1					○	1						
	総合演習 I	4前	1					○			1				
	総合演習 II	4後	1					○			1				
	義肢装具臨床実習 I	2前	6					○	5	2	2	1			
	義肢装具臨床実習 II	3後		6				○	5	2	2	1			
	研究デザイン	3前	2				○		1						
小計 (40科目)			60	20		—	—	—	5	2	2	1	0	兼7	
関連科目	医療英語概論	3前		2		○									兼1
	比較医療文化論	3後		2		○									兼1
	小計 (2科目)		0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2	—
卒業研究	卒業研究	4通	6				○		5	2	2	1			
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—	—	—	5	2	2	1	0	—	
合計 (93科目)		—	112	50	0	—	—	—	5	2	2	1	0	兼37	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 義肢装具学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学位又は称号	学士（義肢装具学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件 保健医療学部義肢装具学科における卒業要件は、学部に4年以上在学し、履修方法に基づき124単位以上を修得することにより、「学士（義肢装具学）」を授与する。 ・履修方法 <ul style="list-style-type: none"> ①基本教育科目：23単位以上（必修15単位、選択8単位以上（人間の理解Ⅰ～Ⅳおよび社会の理解Ⅰ～Ⅳから6単位を含む）修得する。 ②専門基礎教育科目：必修31単位修得する。 ③専門教育科目：必修66単位修得する。 ④専門基礎教育科目及び専門教育科目の選択科目から4単位以上修得し、基本教育科目も含め合計124単位以上修得する。 ・履修科目の登録の上限：44単位（年間） 						1 学年の学期区分			2 学期							
						1 学期の授業期間			1 5 週							
						1 時限の授業時間			9 0 分							

<基礎となる学部>

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(保健医療学部 臨床工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基本教育科目	基礎数学	1前		1				○							兼1
	基礎物理学	1前		1				○							兼1
	基礎化学	1後		1				○							兼1
	基礎生物学	1後		1				○							兼1
	情報処理法	1前	1					○							兼1
	情報管理法	1後	1					○							兼1
	統計分析法	2前	1					○							兼1
	日本語表現法Ⅰ(作文、論文)	1前	1					○							兼2
	日本語表現法Ⅱ(読解、分析)	1後	1					○							兼2
	日本語表現法Ⅲ(発表、討論)	2前	1					○							兼2
	英語Ⅰ(基礎)	1前	1					○		1					兼3
	英語Ⅱ(応用)	1後	1					○		1					兼3
	英語Ⅲ(実践)	2前	1					○		1					兼3
	英語コミュニケーション	2後		1				○							兼3
	フレッシュマンセミナー	1前	1					○		5	3		2		
	プロジェクトスキルⅠ	1後	1					○							兼2
	プロジェクトスキルⅡ	2前	1					○							兼2
	自己管理と社会規範	2後	1					○							兼1
	他者理解と信頼関係	3前	1					○							兼1
	地域活動と社会貢献	3後	1					○							兼1
	人間の理解Ⅰ(健康と運動)	1前		2			○								兼1
	人間の理解Ⅱ(民族と宗教)	1後		2			○								兼1
	人間の理解Ⅲ(歴史と文化)	2前		2			○								兼1
	人間の理解Ⅳ(心理と行動)	2後		2			○								兼1
	社会の理解Ⅰ(自然と環境)	1前		2			○								兼1
	社会の理解Ⅱ(政治と経済)	1後		2			○								兼1
	社会の理解Ⅲ(国際と平和)	2前		2			○								兼1
社会の理解Ⅳ(法律と人権)	2後		2			○								兼1	
体育実技Ⅰ	1前		1					○						兼3	
体育実技Ⅱ	1後		1					○						兼2	
小計(30科目)	—	—	15	23	0			—		5	3	0	2	0	兼33
専門基礎教育科目	応用数学	1後	1					○							兼1
	医学概論	1前	1					○		2	1				兼5
	機械工学概論	2前	1					○							兼1
	機械工学実験	2前		1				○		1			1		兼2
	医療工学概論	1後	1					○					1		
	制御工学	3前		2				○							兼1
	解剖生理学Ⅰ	1前	1					○		1	1				
	解剖生理学Ⅱ	1後	1					○							兼1
病態病理学	2後	2				○			1	1					
小計(9科目)	—	—	8	3	0			—		4	1	0	1	0	兼10

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 臨床工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 教育 科目	基礎電気工学 I	1前	2			○			1							
	基礎電気工学 II	1後	2			○				1						兼1
	電気工学演習	2前	1				○		2							
	医用工学	4前		2			○			1			1			
	基礎電気工学実験	1後	1					○		1			1			
	生体計測装置学実習	3前	2					○		1			1			兼1
	電子工学 I	1後	2				○		1							
	電子工学 II	2前	2				○			1						
	電子工学実験	2後	2					○	1	1						
	生体機能代行装置学実習	3前		2				○					2			兼3
	生化学	1前	2				○		2							ホニハス
	生化学実験	1後		1				○	1	2						
	医用機器安全管理学 I	1前	2				○		1							
	医用機器安全管理学 II	1後		2			○									兼1
	医用機器安全管理学実習	2後		2					4	1			1			
	基礎医学実習 I	1後		1					2	2			1			兼2
	基礎医学実習 II	2前	1							2			1			
	臨床医学総論 I	1前	1					○	1	1			1			
	臨床医学総論 II	1後	1					○	1							兼1
	臨床医学総論 III	2前	1					○	1	1						
	臨床医学総論 IV	2後	1					○	1							
	臨床医学総論 V	3前		1				○								兼7
	臨床医学総論 VI	3後		1				○	2	1			2			兼3
	臨床医学総論 VII	4後		1				○	2				1			
	臨床医学総論 VIII	4後		1				○		1						
	生体機能代行装置学 I	2前	1					○								兼1
	生体機能代行装置学 II	2前	1					○					1			
	生体機能代行装置学 III	2後	1					○								兼1
	生体機能代行装置学 IV	2後		1				○					1			
	生体機能代行装置学 V	3前		1				○	4	2			2			
	生体機能代行装置学 VI	3前		1				○								兼1
	材料工学	4前		2			○			1						
	看護学概論	2後	2				○									兼1
	臨床生理学	2前		2			○		1							
	臨床薬理学	2後		2			○									兼1
	臨床免疫学	3後		2			○		1							
	物性工学 I	1後	2				○		4	2			1			兼1
	物性工学 II	2前		2			○									兼1
	計測工学	1前		2			○			1						
	医用機器学	2前	1					○		1						兼1
公衆衛生学	4前		2			○		2								
医用機器学実習	4前		2						1			1				
医用治療機器学 I	2前	1					○	1								
医用治療機器学 II	2後		1				○		1			1			兼1	
医用治療機器学実習	3前		2				○	2				1			兼2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 臨床工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	生体計測装置学Ⅰ	1後	2			○			1						兼2 兼1	
	生体計測装置学Ⅱ	2前	2			○			1							
	生体計測装置学Ⅲ	2後		2		○			1							
	臨床工学関係法規	4後		2		○										
	臨床実習	3後		6				○	5	2		2				
	臨床工学演習	3前	2					○	2	1		2				
	医療工学演習	3前		2				○		1		2				
	臨床工学総合演習	3後		1				○								
小計 (53科目)			38	49		—			5	3	0	2	0	兼26		
関連科目	医療英語概論	3前		2		○			1						兼1	
	比較医療文化論	3後		2		○										
小計 (2科目)			0	4	0	—			1	0	0	0	0	兼1	—	
卒業研究	卒業研究	4通	6					○	5	2		2		兼1		
小計 (1科目)		—	6	0	0	—			5	2	0	2	0	—		
合計 (95科目)			—	67	79	0	—			6	3	0	2	0	兼63	—
学位又は称号	学士 (臨床工学)		学位又は学科の分野				工学関係・保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件 保健医療学部義肢装具学科における卒業要件は、学部にて4年以上在学し、履修方法に基づき124単位以上を修得することにより、「学士 (臨床工学)」を授与する。 ・履修方法 基本教育科目：23単位以上 (必修15単位、選択8単位以上 (人間の理解Ⅰ～Ⅳおよび社会の理解Ⅰ～Ⅳから6単位を含む)) を修得する。 ・履修科目の登録の上限：44単位 (年間) 							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

<基礎となる学部>

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(保健医療学部 診療放射線学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基本 教育 科目	基礎数学	1前		1				○							
	基礎物理学	1前		1				○						兼1	
	基礎化学	1後		1				○		1				兼1	
	基礎生物学	1後		1				○						兼1	
	情報処理法	1前	1					○						兼1	
	情報管理法	1後	1					○						兼1	
	統計分析法	2前	1					○		1					
	日本語表現法Ⅰ (作文、論文)	1前	1					○						兼2	
	日本語表現法Ⅱ (読解、分析)	1後	1					○						兼2	
	日本語表現法Ⅲ (発表、討論)	2前	1					○						兼2	
	英語Ⅰ (基礎)	1前	1					○						兼4	
	英語Ⅱ (応用)	1後	1					○						兼4	
	英語Ⅲ (実践)	2前	1					○						兼4	
	英語コミュニケーション	2後		1				○						兼2	
	フレッシュマンセミナー	1前	1					○		1	3	1			
	プロジェクトスキルⅠ	1後	1					○						兼1	
	プロジェクトスキルⅡ	2前	1					○						兼1	
	自己管理と社会規範	2後	1					○						兼1	
	他者理解と信頼関係	3前	1					○						兼1	
	地域活動と社会貢献	3後	1					○						兼1	
	人間の理解Ⅰ (健康と運動)	1前		2				○						兼1	
	人間の理解Ⅱ (民族と宗教)	1後		2				○						兼1	
	人間の理解Ⅲ (歴史と文化)	2前		2				○						兼1	
	人間の理解Ⅳ (心理と行動)	2後		2				○						兼1	
	社会の理解Ⅰ (自然と環境)	1前		2				○						兼1	
	社会の理解Ⅱ (政治と経済)	1後		2				○						兼1	
	社会の理解Ⅲ (国際と平和)	2前		2				○						兼1	
	社会の理解Ⅳ (法律と人権)	2後		2				○						兼1	
	体育実技Ⅰ	1前		1					○					兼4	
	体育実技Ⅱ	1後		1					○					兼2	
小計 (30科目)		—	15	23	0			—		2	4	1	0	0	兼28
専門 基礎 教育 科目	造人と 体の 機能 の 能 構	生化学	1前	2				○							兼1
		人体の構造と機能	1前	2				○							兼1
		解剖生理学	1前	2				○							兼1
		解剖生理学演習	4前	1					○						兼1
	成疾 ちり 病 立 の	病理学	1後	2				○							兼1
		薬理学	1後	2				○							兼1
		臨床医学概論	2前	2				○							兼2
	障社 制会 度保	病院管理学概論	1前	1				○			1				兼1
		公衆衛生学	2前	1				○			1				兼1
	理工 学 的 基 礎	応用数学	1前	2					○			1			
		基礎医用工学	1前	2					○		1	1			
		医用工学	1後	2				○			1				
医用工学演習		2前	1					○		1	1				
医用工学実験		2前	1						○	2	2	1			
医用物理学実験	1後	1						○	2	1	1		兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 診療放射線学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎教育科目	放射線物理学Ⅰ	1後	2			○					1					
	放射線物理学Ⅱ	1後	1				○				1					
	放射線生物学	1後	2			○				1						
	放射化学Ⅰ	2前	2			○			1							
	放射化学Ⅱ	2後	1				○			1						
	放射線計測学Ⅰ	2後	2			○				1						
	放射線計測学Ⅱ	2後	1				○			1						
	放射線計測学実験	3前	1					○		2	3	1				
	小計 (23科目)		—	36	0	0				3	5	1	0	0	兼7	—
専門教育科目	診療画像機器学Ⅰ (X線装置全般)	2前	2			○			1							
	診療画像機器学Ⅱ (MRI、US、眼底)	2後	2			○			1							
	診療画像機器学実験	2後	1					○	3	3	1					
	診療画像技術学Ⅰ (一般、透視)	2前	2			○				1				兼1	オムニバス	
	診療画像技術学Ⅱ (AG、CT)	2後	2			○			1					兼1		
	診療画像技術学Ⅲ (MRI、US、眼底)	3前	2			○					1			兼1		
	診療画像技術学Ⅳ	3後	1			○				2	1			兼1		
	診療画像技術学実験	3前	1					○	3	2	1			兼1		
	画像解剖学演習Ⅰ	3後	1				○							兼1		
	画像解剖学演習Ⅱ	4前	1				○		1	1				兼1	オムニバス	
	画像解剖学Ⅰ (AG、CT)	1後	2			○			1							
	画像解剖学Ⅱ (MRI、US、眼底)	2前	2				○				1					
	査核 技術学 検	核医学検査技術学Ⅰ	3前	2			○				1					
		核医学検査技術学Ⅱ	3前	2			○			1						
		核医学検査技術学Ⅲ	3後	1				○		1						
		核医学検査技術学Ⅳ	4前	1			○				1					
	療放 技術 線学 治	放射線治療技術学Ⅰ	2後	2			○			1	1					オムニバス
		放射線治療技術学Ⅱ	3前	2			○			1						
		放射線治療技術学演習	3前	1				○		1						オムニバス
		放射線治療技術学Ⅲ	4前	1			○									オムニバス
	情用 報画 学像	医用画像情報学Ⅰ	2後	2			○				1					
		医用画像情報学Ⅱ	3前	2			○			1		1				オムニバス
		医用画像情報学演習	3後	1				○		1	1	1				
医療情報学		3前	1			○				1						
全放 管射 理線 学安	放射線安全管理学Ⅰ	3後	2			○			1							
	放射線安全管理学Ⅱ	4前	1			○				1						
	関係法令	3後	1			○				1						
医療安全 管理学	医療安全管理学	4前	2			○			2					兼1	オムニバス	
関連 科目	チーム医療論	1前	1			○				1				兼5	オムニバス	
	看護学概論	3前	1			○								兼2		
	生命倫理学	2後	1			○								兼1		
	臨床心理学	3前		1		○								兼1		
															兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 診療放射線学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	臨床実習 I	3後	6					○	6	5	2			兼1 兼1	オムニバス オムニバス
	臨床実習 II	4前	4					○	6	5	2				
	放射線技術学特別講義	4後		1		○								兼3	
	放射線技術学演習	3後		1			○		6	5	2				
	総合演習 I	4後	1				○		2	1	1				
	総合演習 II	4後	1				○		2	1	1				
	総合演習 III	4後	1				○		1	3					
小計 (39科目)			59	3	0	-			6	5	2	0	0	兼14	-
卒業研究	卒業研究	4通	4				○		6	5	2				
小計 (1科目)		-	4	0	0	-			6	5	2	0	0		-
合計 (93科目)		-	114	26	0	-			6	5	2	0	0	兼46	-
学位又は称号		学士 (放射線技術学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件 保健医療学部診療放射線学科における卒業要件は、学部に4年以上在学し、履修方法に基づき124単位以上を修得することにより、「学士 (放射線技術学)」を授与する。 ・履修方法 ①基本教育科目：23単位以上 (人間の理解 I～IVおよび社会の理解 I～IVから6単位を含む) を修得する。 ②専門基礎教育科目：36単位以上を修得する。 ③専門教育科目：65単位以上 (選択2単位以上含む) を修得する。 ・履修科目の登録の上限：44単位 (年間) 							1 学年の学期区分		2 学期						
							1 学期の授業期間		1 5 週						
							1 時限の授業時間		9 0 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健医療学基盤研究	現代における保健医療学分野に関する最新の諸課題を理解し、関連諸分野の動向と合せて、保健医療学分野が直面する諸課題を解決するための基盤となる研究力を高めるとともに、先行研究を踏まえた上で、自説を論理的に展開できる能力を培う。具体的には、保健医療学分野が対象とする諸問題について、多角的な分析と考察を行うとともに、大学院生の研究テーマに応じた保健医療学分野に関する問題を提起し、文献や事例等の考察から結果のまとめと発表までを行う。	共同
	保健医療学研究方法	<p>(概要)</p> <p>保健医療学分野における研究の目的や意義と役割について理解を深めるとともに、情報収集を対象とした文献検索方法、仮説検証のための実験研究方法や調査研究方法、臨床での課題を研究に結びつけるための事例研究方法、質的データを科学的に分析するための質的研究方法など、保健医療学分野における様々な研究方法や研究活動等の考察を通して、研究能力の質を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 林 裕子、① 宮坂智哉、5 野坂利也、3 山下政司、14 熊澤誠志/7回) (共同)</p> <p>保健医療学分野における最新の研究動向や研究成果に関する事例の考察を通して、研究方法や研究活動の多様性について理解を深めるとともに、専門分野の枠を超えて独創的に研究を遂行することができる能力を高める。</p> <p>(1 林 裕子/8回)</p> <p>看護学分野における研究方法や研究活動等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(① 宮坂智哉/8回)</p> <p>理学療法学分野における研究方法や研究活動等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(5 野坂利也/8回)</p> <p>義肢装具学分野における研究方法と研究活動等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(3 山下政司/8回)</p> <p>臨床工学分野における研究方法と研究活動等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(14 熊澤誠志/8回)</p> <p>放射線技術学分野における研究方法と研究活動等について実践的な側面から考究する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	保健医療学研究倫理	保健医療学研究を行う場合の研究者に求められる要件と規範や研究者が果たすべき責務についての理解を深めることを目的とする。そのため昨今、社会的な問題となっている生命倫理と研究倫理に関する事例を取り上げて、課題や問題点を多角的に考察することにより、保健医療学研究における今日的な諸問題に的確に対処できる思考力・実践力を養うとともに、保健医療学分野の研究者として適切な判断や倫理的配慮のもとに対処できる能力を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専修科目	保健医療学特殊研究Ⅰ	<p>研究者・大学教員として、研究開発の場面において俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決に向けた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、看護学分野における重要な特定の主題や看護学分野が直面する諸課題に関するテーマを取上げて考察することで、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための知識と能力を高める。</p> <p>(1 林 裕子、② 福良 薫) (共同) 生活行動回復支援における今日的な主題と諸課題について考察する。</p> <p>(6 秋原志穂、10 松原三智子) (共同) 健康地域生活支援における今日的な主題と諸課題について考察する。</p>	共同
	保健医療学特殊研究Ⅱ	<p>研究者・大学教員として、研究開発の場面において俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決に向けた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、理学療法学分野における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取上げて考察することで、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための知識と能力を高める。</p> <p>(2 田中 敏明、① 宮坂 智哉、17 加藤 土雄) (共同) 理学療法評価及び理学療法治療における今日的な主題と諸課題について考察する。</p>	共同
	保健医療学特殊研究Ⅲ	<p>研究者・大学教員として、研究開発の場面において俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決に向けた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、義肢装具学分野における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取上げて考察することで、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための知識と能力を高める。</p> <p>(5 野坂 利也、③ 早川 康之、15 昆 恵介) (共同) 義肢装具の採型、製作及び適合における今日的な主題と諸課題について考察する。</p>	共同
	保健医療学特殊研究Ⅳ	<p>研究者・大学教員として、研究開発の場面において俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決に向けた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、臨床工学分野における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取上げて考察することで、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための知識と能力を高める。</p> <p>(3 山下 政司、4 清水 久恵、⑤ 菅原 俊継) (共同) 医用生体工学及び医用安全管理における今日的な主題と諸課題について考察する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専修科目	保健医療学特殊研究Ⅴ	<p>研究者・大学教員として、研究開発の場面において俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決に向けた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、放射線技術学分野における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取上げて考察することで、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための知識と能力を高める。</p> <p>(7 真田哲也、11 八重樫祐司) (共同) 放射線治療及び放射線安全管理における今日的な主題と諸課題について考察する。</p> <p>(④ 島雄大介、14 熊澤誠志) (共同) 診療画像技術及び医療画像情報における今日的な主題と諸課題について考察する。</p>	共同
展開科目	研究開発基盤研究	<p>保健医療学分野における高い水準の研究活動に豊富に接する中で、自立して研究活動を行うための研究能力を高めることを目的として、大学内における多様な研究活動の場への参加を通じて研鑽を積むことにより、研究者としての自覚や意識の涵養を図る。また、学会や関係団体等が主催する講演会や研究会等への参加を通して、研究者としての豊かな知的学識を培うとともに、保健医療学分野における最新の研究や動向、多様な研究方法の特徴について理解を深める。</p> <p>(1 林 裕子) 看護学分野における研究動向や研究方法等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(2 田中敏明) 理学療法学分野における研究動向や研究方法等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(5 野坂利也) 義肢装具学分野における研究動向や研究方法等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(4 清水久恵) 臨床工学分野における研究動向や研究方法等について実践的な側面から考究する。</p> <p>(14 熊澤誠志) 放射線技術学分野における研究動向や研究方法等について実践的な側面から考究する。</p>	
	研究開発実践研究	<p>保健医療学分野における高い水準の研究活動に豊富に接する中で、自立して研究活動を行うための研究能力を高めることを目的として、大学の教員の下での研究活動の場を通じて研究経験を積むとともに、教育的配慮の下に、大学院生に一定の責任と権限を与え、保健医療分野における研究開発プロジェクトの企画や管理等の運営を体験的に学修させることで、高度の専門性が求められる研究者として、研究開発や研究活動等を実践するために必要となる能力を修得させる。</p> <p>(1 林 裕子) 看護学分野における研究実践活動等について実務的な側面から学習する。</p> <p>(2 田中敏明) 理学療法学分野における研究実践活動等について実務的な側面から学習する。</p> <p>(5 野坂利也) 義肢装具学分野における研究実践活動等について実務的な側面から学習する。</p> <p>(4 清水久恵) 臨床工学分野における研究実践活動等について実務的な側面から学習する。</p> <p>(14 熊澤誠志) 放射線技術学分野における研究実践活動等について実務的な側面から学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	大学教育基盤研究	<p>(概要) 高等教育機関としての大学の役割と責務や大学教育の意義や目的と在り方について概説した上で、大学教育における教員の役割や使命と教員に求められるものや教員としての適格性など、教育者としての職務における認識を深めるとともに、大学教育の歴史の変遷から高等教育政策、教育行政、教育制度、関係法令等についての理解及び学士力の構成要素と学士力に対する授業の役割や価値の認識と大学教育の質向上に向けた教育改革の取り組み、大学経営や地域連携など、現代の大学教育が抱える課題や問題について考察する。 また、授業目標の設定、到達能力の明示、授業デザイン、成績評価、シラバスの作成、自己点検等の授業設計と評価について理解するとともに、協同学習やPBL等の学習方法及びフィールド学習等の授業運営の技法について理解する。さらに、話し方、動機付け、学習意欲の醸成、演習・実習指導、実務家導入等の講義や実習の技法、教材作成、eラーニング、双方向対話型授業、学外との連携、理解度の把握、情報技術の活用などの授業運営や教育方法等について実践的な側面から考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (18 出口寿久／5回) 大学教育の目的や大学教員の役割及び大学教育に関する社会的・制度的及び経営的事項について考察する。 (20 秋山敏晴／5回) 大学教育における学生指導や教育相談等の意義や方法と大学教育が抱える課題や問題について考察する。 (2 福良 薫／5回) 看護学教育における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (1 宮坂智哉／5回) 理学療法教育における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (3 早川康之／5回) 義肢装具学教育における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (5 菅原俊継／5回) 臨床工学教育における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (4 島雄大介／5回) 放射線技術学教育における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。</p>	オムニバス方式
	大学教育実践研究	<p>大学の教員の下で教育活動の場を通じて教育経験を積むとともに、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験・演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育における教育指導能力の向上を図ることを目的とする。具体的には、授業理解の促進や発表・報告等のための指導及び支援、教材等の作成補助、臨地実習(見学)引率補助、レポートや小テストなどの整理を行う。また、実験・実習補助、学生への助言、グループワークなどの補助、授業アンケート等の実施補助、出席管理補助、教材開発の補助、授業のビデオ撮影、授業環境の維持などを行う。</p> <p>(2 福良 薫) 看護学教育における授業実践活動等について実務的な側面から学習する。 (1 宮坂智哉) 理学療法教育における授業実践活動等について実務的な側面から学習する。 (3 早川康之) 義肢装具学教育における授業実践活動等について実務的な側面から学習する。 (5 菅原俊継) 臨床工学教育における授業実践活動等について実務的な側面から学習する。 (4 島雄大介) 放射線技術学教育における授業実践活動等について実務的な側面から学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	保健医療学特別研究	<p>研究指導教員による入学から修了までの継続的な研究指導体制をとるものであり、大学院生一人ひとりの研究計画に対応する個別指導を中心として、博士の学位に相応しいレベルの論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。具体的には、自己の研究課題の設定にはじまり、研究計画の立案・調査・分析から、研究の過程で得られた個々の成果の発表などを通して、高度な研究能力の養成を図るとともに、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(1 林 裕子) 高齢者の意識障害・寝たきり「廃用症候群」患者に対する回復支援のための看護の役割と生活行動の再獲得を支援するための看護技術について研究指導を行う。</p> <p>(6 秋原志穂) 現代の感染症の特徴と感染予防の方法及び感染症の特徴に基づいた感染症患者への対応と感染症患者のための看護ケアなど、感染症とその予防について研究指導を行う。</p> <p>(2 福良 薫) 脳梗塞患者・脳出血患者の看護過程から発症後の看護援助及び身体機能障害を抱えた脳卒中患者の生活の再構築を支援する介護介入のあり方について研究指導を行う。</p> <p>(10 松原三智子) 家族のアセスメント、コーチング・動機づけ面接・家族システム看護などを用いた家族関係の調整や支援方法、子どもの虐待予防に向けた親支援について研究指導を行う。</p> <p>(2 田中敏明) 理学療法評価や訓練のための医療機器及び日常生活を支援する福祉機器の開発における計測から分析までの開発手法に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(1 宮坂智哉) 筋萎縮性側索硬化症の概要と病態及び筋萎縮性側索硬化症患者の日常的意思伝達を継続的に支援する眼球運動入力デバイスの開発と臨床評価について研究指導を行う。</p> <p>(17 加藤士雄) バーチャルリアリティ技術を用いた遠隔リハビリテーションシステム及びバーチャルリアリティ技術を用いたトレーニングと運動制御の再学習の促進について研究指導を行う。</p> <p>(5 野坂利也) 正常歩行の下肢関節の運動及び切断レベル別の義足歩行の特徴から切断レベルと義足歩行のバイオメカニクスについて科学的根拠を基に研究指導を行う。</p> <p>(3 早川康之) 義肢装具の製作方法について、処方から完成適合までの製作工程における最新の製作技術とその特徴及び装具開発における現状の問題点と今後の課題について研究指導を行う。</p> <p>(15 昆 恵介) 脳卒中片麻痺患者が使用する底屈制動短下肢装具が歩行動作に及ぼす影響について、神経生理学的側面及び運動力学的側面の両面から研究指導を行う。</p> <p>(3 山下政司) 物理的・心理的刺激に対する生体影響について、自律神経・血液循環・脳機能等を含めた計測・解析技術の開発、評価等を通し、生体に対する影響メカニズムの解明等に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 清水久恵) ELF電界曝露に伴うヒトの体毛に働く電気力及び血流量変化や血液性状変化などの考察を通して、電界曝露に起因するヒトの生理的变化について研究指導を行う。</p> <p>(5 菅原俊継) 感染症を高感度に検出する方法や新たなウイルス検出法の臨床応用への適応及び感染を防止するための感染経路の解明や予防策について研究指導を行う。</p> <p>(7 真田哲也) 放射線・放射能の測定と測定結果の解釈や評価の観点から、天然と人工による放射線の汚染や放射線からの被ばく線量及び放射線が人体に与える影響について研究指導を行う。</p> <p>(11 八重樫祐司) 高精度放射線治療の実現に向けての技術的諸問題を分析し、その解決策について多面的・多角的な考察を展開できるよう研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科目		<p>(④ 島雄大介) X線と物質の主な相互作用である吸収、散乱、屈折の3つの相互作用を利用したX線画像法について最近の研究動向を踏まえて研究指導を行う。</p> <p>(14 熊澤誠志) 生体から得られるMRI信号の解析や可視化を目的とした画像生成シミュレーションや画像生成過程における画像処理手法について研究指導を行う。</p>	

学校法人北海道科学大学 設置認可等に関する組織の移行表

【平成31年度】

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員
北海道科学大学大学院			
工学研究科 修士課程			
機械工学専攻	5	—	10
電気電子工学専攻	4	—	8
情報工学専攻	4	—	8
建築学専攻	4	—	8
都市環境学専攻	4	—	8
保健医療学研究科 修士課程			
看護学専攻	5	—	10
リハビリテーション科学専攻	4	—	8
医療技術学専攻	4	—	8
工学研究科 博士後期課程			
工学専攻	6	—	18
薬学研究科 博士課程			
臨床薬学専攻	3	—	12
計	43	—	98
北海道科学大学			
工学部			
機械工学科	92	—	368
情報工学科	90	—	360
電気電子工学科	80	—	320
建築学科	80	—	320
都市環境学科	50	—	200
薬学部			
薬学科	180	—	1080
保健医療学部			
看護学科	80	—	320
理学療法学科	40	—	160
義肢装具学科	50	—	200
臨床工学科	70	—	280
診療放射線学科	50	—	200
未来デザイン学部			
メディアデザイン学科	80	—	320
人間社会学科	50	—	200
計	992	—	4328
北海道科学大学短期大学部			
自動車工学科	100	—	200
計	100	—	200

【平成32年度】

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
北海道科学大学大学院				
工学研究科 修士課程				
機械工学専攻	5	—	10	
電気電子工学専攻	4	—	8	
情報工学専攻	4	—	8	
建築学専攻	4	—	8	
都市環境学専攻	4	—	8	
保健医療学研究科 修士課程				
看護学専攻	5	—	10	
リハビリテーション科学専攻	4	—	8	
医療技術学専攻	4	—	8	
工学研究科 博士後期課程				
工学専攻	6	—	18	
薬学研究科 博士課程				
臨床薬学専攻	3	—	12	
保健医療学研究科 博士後期課程				
保健医療学専攻	3	—	9	研究科の専攻の設置 (認可申請)
計	46	—	107	
北海道科学大学				
工学部				
機械工学科	92	—	368	
情報工学科	90	—	360	
電気電子工学科	80	—	320	
建築学科	80	—	320	
都市環境学科	50	—	200	
薬学部				
薬学科	180	—	1080	
保健医療学部				
看護学科	80	—	320	
理学療法学科	40	—	160	
義肢装具学科	50	—	200	
臨床工学科	70	—	280	
診療放射線学科	50	—	200	
未来デザイン学部				
メディアデザイン学科	80	—	320	
人間社会学科	50	—	200	
計	992	—	4328	
北海道科学大学短期大学部				
自動車工学科	100	—	200	
計	100	—	200	